

## 目次

1. 土づくり表彰募集始まる
2. 今年度の検定ポスター完成
3. 土壌医の新聞連載が決定
4. 土壌医活躍中！  
JA全農ふくれん 久保成人さん
5. 特集 WEB 記事紹介
6. 昨年度の職業別受験動向



## 1. 「優良土づくり推進活動表彰」今年度も募集！

土壌診断に基づく作物生育改善や、土づくりの普及活動など皆さまの取り組みを奨励する表彰の応募を開始しました。

### 《応募期間》

2024年7月30日～9月30日17時

### 《応募内容》

個人部門：土壌医の会正会員及び土壌医検定資格登録者  
土壌医の会部門：各土壌医の会

### 《応募方法》

申請書にて応募。詳細はホームページをご覧ください。

<https://soil-doctor.net/award>

### 《表彰式》

日程：11月15日（金）午後

場所：全国家電会館（東京都文京区湯島3丁目6番1号）



### 1-2 研究部会活動

#### (1) 首都圏土壌医の会の首都圏の意味

広域で可能になること  
個別のテーマの研究部会の部会員の確保  
多様な地域、多様な職業の人との交流

研究部会で可能になること  
テーマごとの専門家になる  
土壌医等として、活躍の場が開ける



\*応募者には CPD ポイントが付与されますので、奮ってご応募ください

\*表彰事例は、土壌協会のホームページや、土壌医の会全国交流大会でも広く紹介します

\*例年メディアの取材もあります

## 2. 2024年度の土壌医検定のポスター完成！



表紙の写真は福井県立福井農林高等学校、新潟県土壌医の会の皆さんにご協力いただきました。ポスターやパンフレットをご希望の方は、[e-mail@soil-doctor.net](mailto:e-mail@soil-doctor.net) までご連絡ください。PRのほどよろしくお願いたします！

**試験日・申込期限・申込方法**  
**【試験日】2025年2月9日(日)**  
 ● 試験会場：福井県立福井農林高等学校  
 ● 試験時間：午前8時～午後5時  
 ● 受験料：1級：3,500円、2級：4,500円、3級：5,500円  
**【申込方法】**  
 2024年1月15日(日)～1月18日(水)  
 インターネット申込又は郵送での申込  
**【申込料】**  
 ● 1級：3,500円  
 ● 2級：4,500円  
 ● 3級：5,500円  
**【試験実施場所】**  
 以下の試験会場（エリア）を予定しています  
 ● 北海道（札幌市） ● 東北（仙台市） ● 関東（さいたま市） ● 中部（金沢市） ● 北陸（福井市） ● 近畿（京都市） ● 中国（広島市） ● 四国（高松市） ● 九州（福岡市）  
**【お問い合わせ先】**  
 一般財団法人日本土壌協会  
 〒910-0001 福井県福井市南町1-1-1  
 TEL: 0776-228228 FAX: 0776-2281044  
 E-MAIL: [info@doiken.or.jp](mailto:info@doiken.or.jp)  
 土壌医検定のホームページ <http://doiken.or.jp/>

**土壌医検定とは**  
 農業、園芸の分野で、土壌の肥力や養分バランスの把握や改良を目的として、土壌の検査や診断を行う専門職です。土壌の性質や作物の生育状況に応じて、適切な施肥や灌漑のアドバイスを行います。土壌の健康を維持し、持続可能な農業を実現するための重要な役割を担っています。  
**資格取得と登録後の活動**  
 ● 資格取得試験に合格すること  
 ● 登録申請書の提出と登録料の納入  
 ● 登録後、各地の農業改良センターや農協などで活動  
**資格区分と試験内容**  

| 区分   | 1級     | 2級     | 3級     |
|------|--------|--------|--------|
| 試験科目 | 基礎     | 基礎     | 基礎     |
| 試験方法 | 筆記     | 筆記     | 筆記     |
| 試験時間 | 90分    | 90分    | 90分    |
| 試験会場 | 各都道府県  | 各都道府県  | 各都道府県  |
| 試験料  | 3,500円 | 4,500円 | 5,500円 |
| 試験科目 | 基礎     | 基礎     | 基礎     |
| 試験時間 | 90分    | 90分    | 90分    |
| 試験会場 | 各都道府県  | 各都道府県  | 各都道府県  |
| 試験料  | 3,500円 | 4,500円 | 5,500円 |

三つ折り案内 ver

## 3. 土壌医の新聞連載が決定しました！

全国日刊の農業専門紙・日本農業新聞に、土壌医による執筆記事が掲載されます。農業の担い手に向けて経営や営農のコツについて解説する「経営のツボ」という連載企画があり、土壌医が土壌改善のポイントなどについて解説します。掲載予定は以下です。

- 9月4日（水） 野口勝憲さん（土壌医の会全国協議会会長、(一財)日本土壌協会専門委員)
- 9月11日（水） 長谷川雅義さん（元新潟土壌医の会会長、(一財)日本土壌協会専門委員、土壌医)
- 9月18日（水） 吉田清志さん（信州土壌医の会会長、土壌医)
- 9月25日（水） 市原知幸さん（土壌医の会全国協議会会員、土壌医)

## 4. 土壌医活躍中！～JA 全農ふくれんの久保成人さん～

### ■ 自己紹介

J A全農ふくれんの久保成人と申します。現在は、福岡県向けに農薬の技術普及、在庫管理、等の担当をしています。

2014 年に入会し、これまで福岡県内外の肥料農薬営業担当を計 9 年間勤めました。農家さんや J A 指導員との接点が多く、施肥アドバイスができるようにと土壌医の受験をしました。



久保さん

### ■ 土壌医としてのこれまで

生産者のご要望にもとづき、各圃場にあった肥料の提案、開発をしてきました。土壌分析センターでの分析結果をベースに処方箋を作成し、J Aの担当者、生産者と相談しながら肥料を設計します。養分の過不足や肥料の成分

を見るだけではなく、圃場の状況や散布する機械、個々の作業スタイルなども考慮します。

近年は農家の大規模化が進み、特に省力化が求められています。今まで数回に分けて施肥していたところを 1 回で終わらせるように肥料を設計するなど、労力を削減することは人件費を抑えることにもつながります。近年では、大麦若葉のオリジナル肥料を作成しました。

また、地域で余剰になっている堆肥のような未利用資源の有効活用にも注力してきました。堆肥はリーズナブルで、肥料代も抑えられます。化学肥料と混合した指定混合肥料は県内の施設園芸、麦大豆作等幅広くご利用いただいています。



開発した指定混合肥料

### ■ 土壌医としてのこれから

来春より、現職を一旦退職して J I C A 協力隊員としてフィリピンで水稲収量改善プロジェクトに参加してきます。現地は旺盛な食糧需要とは裏腹に収量の伸び悩みが課題だそうです。特に土壌養分のバランスの乱れによるところも多いと聞いていますので土壌医としてこれまで福岡県で経験してきたことを存分に活かしていきたいと思います。



農家に土壌分析の結果をフィードバック（中央が久保さん）

### ■ 土壌医を取ってよかったこと

多くの生産者やメーカーの担当者、県機関の方々と知り合うことが出来ました。幸運なことになにか悩んだことがあれば力になってくれる方ばかりです。上記の取組も土壌医でつながった仲間（先輩方）に相談して進めることが出来ました。私はまだまだ未熟ですが、プロフェッショナルの連絡網を使えることも大きな資産だと思います。

### ■ その他、土壌医について思うこと

農法は山ほどあるがそれらの理解にはいずれも土壌の知識は必要不可欠で、そういう意味では土壌医の学習は大いに役立ちました。また、土壌医検定には 3.2.1 級と段階があるのでチームメイトにも薦めやすく、とってもらいやすいものだと感じています。

久保さんにご寄稿いただきました。ありがとうございました！



## 5. 特集 WEBの土壌医の記事拾ってみた

先日、テレビ東京の「正解のないクイズ」という番組で、宇宙飛行士・山崎直子さんが「20年後に今より値段が高くなっているが、今は普通に買えるものは何ですか？」に対して「土」と答え話題になりました。さらにTwitter(X)で「まだ増え続ける世界人口を支える土は、科学的に再現できないからこそ、これからもっと価値が高くなりそう」とも。土との共生は人類共通のテーマですね。

ひるがえって、土の専門家である“土壌医”はどのくらい知られているのでしょうか。今回は、土壌医の会の日頃の発信とは別に、土壌医が取り上げられているweb情報をいくつか拾ってみました。

### \*中日新聞「土づくり 高校生が初の快挙 福井農林高3年2人 土壌医検定2級に合格」(2024/4/10)

2023年度の検定試験で、高校生2人が2級に合格しました。そのことを福井発の記事として、取り上げていました。

<https://www.chunichi.co.jp/article/881898>

### \*埼玉県ホームページ「土壌医に学ぶ 土壌診断を用いた土づくりと施肥改善」

県が支援する有機農業に関する自主企画研修会について「土壌医に学ぶ 土壌診断を用いた土づくりと施肥改善」という表題の記事があり、講師として土壌医の農家・内藤圭亮さんが紹介されていました。

[https://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/organic\\_kensyu/organic\\_jisyukikaku.html](https://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/organic_kensyu/organic_jisyukikaku.html)

### \*農業者のための情報サイト「農家web」「土壌医検定とは？内容・難易度と取得のメリット」

土壌医検定について分かりやすく解説してくれています。

<https://www.noukaweb.com/soil-doctor-certification/>

### \*日本農業新聞「優良土づくり推進活動表彰 金原伸大さん(北海道立農大校)最高賞」(2023/11/29)

毎年土づくり表彰の結果を報道しています。

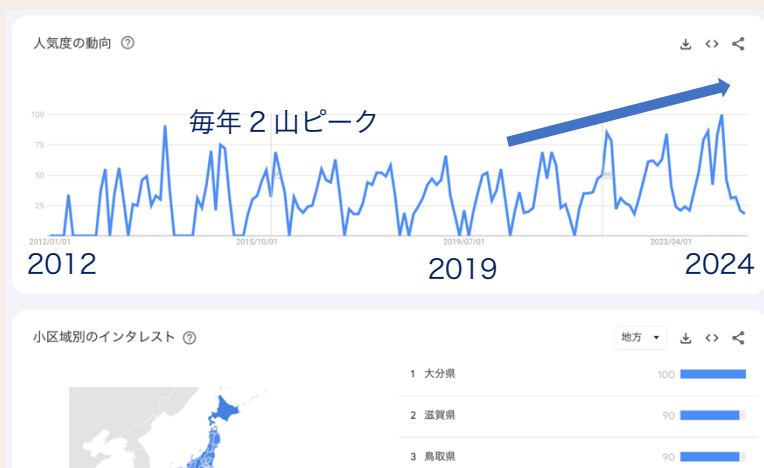
<https://www.agrnews.co.jp/farming/index/199185>

### \*農村ニュース「土づくりに更に強い後押しを」

土づくりの重要性として土壌医の資格に触れ、農機販売店においても資格取得する意義に触れられています。

<https://www.nouson-n.com/media/2023/12/12/9296>

などなど。。

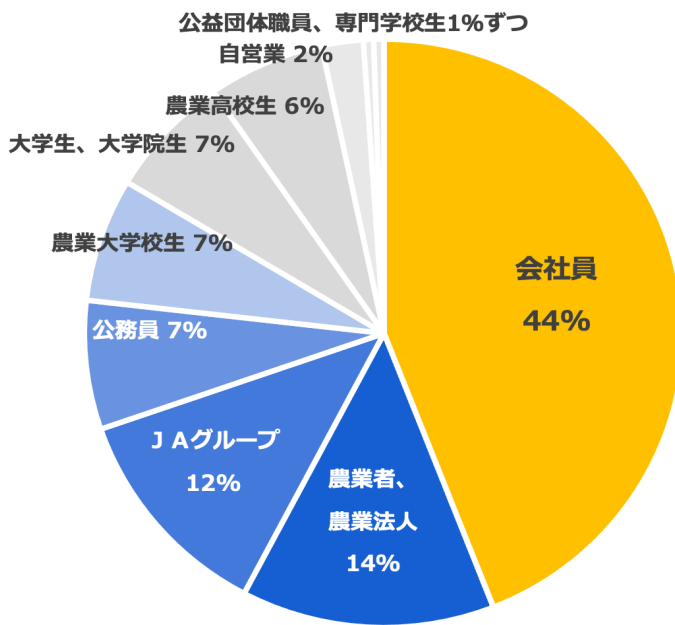


インターネットでの「土壌医」の検索数もGoogleトレンドで調べてみました。左の写真上は、土壌医検定が始まった2012年度からの検索量の推移の結果です。ここ5年はじわじわと検索量が増えていることが分かります。また、1年のうち3月と12月に検索量のピークがありました。それぞれ、受験申込期限と合格発表ですね。検索された場所で多かったのは、大分県や滋賀県、鳥取県でした。

## 6. 昨年度の受験分析～農家、JAグループ、公務員が過去最多～

2023年度の土壌医検定の受験申込者数は、2014年度に次ぐ2番目の多さ（3231人）となりました。どんな方が受験したのでしょうか。今回は受験申込数を職業別に調べてみました。

2023年度の職業別受験申込数



職業別の試験申込者で最も多いのは「会社員」で全体の44%。次いで「農業者、農業法人」（14%）、「JAグループ」（12%）、「公務員」（7%）となっています。なお、「農業者、農業法人」、「JAグループ」、「公務員」の受験申込数は、いずれも過去最多でした。

前年度と比較して最も増加したのは「会社員」（60名）で、「大学生、大学院生」や「公務員」も増えました。逆に減少したのは「農業高校生」（-64名）と「短期大学生、専門学校生」（-40名）でした。

「農業高校生」の減少は、昨年度まで準会場として設置のあった4カ所の農業高校が今年度は不参加だった影響が大きいと思われます。

### 編集後記

室温50度超えの温室で農作業をする日々が続いています。お盆を過ぎたころから暑さは和らいてきましたが、今度は台風シーズンですね。急な天気の変化に体調を崩さぬよう、気をつけてお過ごしください。（丸山）

ご感想、ご寄稿等をお待ちしております。[e-mail@soil-doctor.net](mailto:e-mail@soil-doctor.net)までお寄せ下さい。